

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年10月20日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年10月20日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【雑固体廃棄物焼却設備軽油タンク液位計の指示不良について】 委託運転員が、軽油タンクに軽油を受け入れて使用したが、タンク液位計の指示値が変化していないことを確認。軽油使用量積算計は正常に動作していることから、液位計の指示不良と推定。 また、軽油タンク液位は、積算計の使用量から管理可能であり、液位計の代替として、軽油の受入前後にタンクの深さを実測することでタンク液位を把握できることから、焼却設備の運転に影響なし。 今後、当該液位計を交換予定。</p>	GⅢ	10月14日
2	<p>【第二セシウム吸着装置吸着塔(2B)出口圧力計の指示不良について】 当直員が、第二セシウム吸着装置の起動時に、吸着塔の差圧異常警報の発生を確認。 パラメータを確認したところ、吸着塔(2B)の出口圧力計の指示値が通常と異なり、後段の吸着塔(3B)の出口圧力より低い指示値であったため、吸着塔(2B)出口圧力計の指示不良と推定。 吸着塔(2B)と(3B)それぞれの入口、出口の差圧は確認できなくなるが、吸着塔(2B)入口圧力指示と(3B)出口圧力指示は確認可能であり、(2B)(3B)合算値での差圧は把握できることから、運転に影響なし。 今後、当該圧力計を交換予定。</p>	GⅢ	10月18日
3	<p>【増設多核種除去設備(B)クロスフローフィルタ(3B)(4B)二次側流量計の指示不良について】 当直員が、増設多核種除去設備(B)起動時に、クロスフローフィルタ(3B)(4B)の二次側流量調整弁の開度が、他の系統のクロスフローフィルタの二次側流量調整弁の開度より1割ほど多い開度にも関わらず、流量が同じ値であることを確認。 調査の結果、(3B)(4B)二次側流量計の不良により、流量が低めに指示していると推定。 増設多核種除去設備の運転については、クロスフローフィルタ(3B)(4B)二次側流量調整弁を手動で調整し、他の系統のクロスフローフィルタの二次側流量調整弁にて流量調整が可能であることから、運転に影響なし。 今後、当該流量計を交換予定。</p>	GⅢ	10月18日
4	<p>【サブドレンー時貯水タンク(J)の排水自動停止について】 当直員が、免震重要棟集中監視室にて、水処理設備の現場と免震重要棟の通信異常を示す警報が発生し、遠隔監視盤によるサブドレンー時貯水タンク(J)の排水状況の監視ができなくなったことを確認。 その後、当該監視盤を復旧したが、排水が自動停止していることを確認。 なお、現場にて排水停止状態に異常がないことを確認。 調査の結果、分電盤内の作業中、養生シートが剥がれそうになったためシートを押さえようとしたところ、誤って分電盤内のテストボタンを押してしまい制御電源が喪失したため、排水が自動停止したことを確認。 制御電源を復旧し、設備に異常がないことを確認後、排水を再開。 今後、再発防止対策を検討。</p>	GⅢ	10月17日